

多くの人間が身震いした、 大地の身震い。

突然、ゴーという轟音とともに、狂ったように大地が揺れ始めた。慌て、逃げ場を探そうとする人々。あちこちで火災が発生し、町には一面に火の海が広がる…。日本を襲った未曾有の大悲劇——関東大震災は、今から66年前の1923年9月1日に起きました。その残したものは、瓦礫と死体の山、一面の焼け野原…。その苦い記憶は私たちに大事な教訓も残してくれました。“地震列島・日本に住む私たちは、絶対に災害に対する備えを忘れてはいけない”ということ。9月1日は「防災の日」。関東を襲った悪夢を忘れずに、二度と繰り返さないようにとの願いを込めて定められたものです。この日は、川崎市はもちろん、日本各地で防災訓練が行われます。ぜひひとりでも多くの方が積極的に参加し、いつ大きな地震がきても落ち着いて行動できるよう備えましょう。なんといっても、地震はいつ来るかもわからず、防ぐこともできないのですから。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防御
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



1989

8

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
•	•	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	•	•

■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。



かわさき NO
 防災広報紙

1989年(平成元年)7月31日発行
 発行所 川崎市
 編集所 土木局防災対策室
 〒210川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL. (044) 200-2111内線2841

60



9月1日は、あなたにも参加してほしい。

September

川崎市は、9月1日の「防災の日」を中心とする防災週間中に、全市をあげて地震に対する防災訓練を実施します。『備えあればうれいなし』のことわざとおり、訓練の積みかさねが重要であり、また、高齢者・障害者の皆さんに対する思いやりも大切なことです。

また、地震が起こったとき、一番おそろしいことは、「火を出す」ことです。自分の家は大丈夫でも、となり近所から火が出れば、やがては自分の家にも燃え移る危険があります。揺れがおさまる家の安全を確認したら、「火は大丈夫ですか」「ケガ人はいませんか」と小さな地震でも普段からとなり近所で声をかけあいましょう(地震防災一声運動)。

防災訓練に参加しましょう

●東海地震の発生が予知されたときの訓練
 ●午前9時頃、消防車やパトカーなどが、一斉にサイレン(45秒鳴らして15秒休みを3回繰り返す)を鳴らし、警戒宣言が発せられたことを伝達します。
 ●警戒宣言の発令に伴い、心理的不安を誘発しやすい川崎駅周辺において、交通規制バス・タクシー乗場の一時移転を行うなど混乱防止の訓練を行います。



川崎駅前混乱防止訓練(昨年度)



消火訓練(昨年度)

●関東大震災と同じくらいの地震が起きたときの訓練
 ●午前10時から中央会場の「小田急向ヶ丘遊園」で、地域のみならずの参加を得て、防災関係機関などの協力のもとに、応急対策の迅速化、的確化を図る総合的な訓練を行います。
 ●地域ぐるみの訓練・街角防災訓練

防災訓練では、こんなことをします。

- 1 情報収集 伝達訓練**
町内の被災状況や危険箇所の状態など情報を収集し、防災関係機関の指示等を住民に伝達します。
- 2 消火訓練**
消火器やバケツなどを使って消火し、また火災から身を守る方法を身につけます。
- 3 避難誘導訓練**
組織ぐるみで避難の要領を身につけ、定められた避難場所まで早く安全に避難できるようにします。
- 4 給食給水訓練**
炊き出しや、給水用の資器材を使って、食糧や水を確保する方法を身につけます。
- 5 救出救護訓練**
負傷者の応急手当の方法、救護所への連絡、搬送の方法を身につけます。また、ヘリコプター等を使い、逃げ遅れた人の救出も行います。
- 6 ライフラインの応急復旧訓練**
私たちの生活に不可欠な電気、ガス、水道、電話等が災害により停止した場合の応急復旧を行います。

4 こちらお天気情報室

ジェーン、キティ、キャサリン……外国女性の名前が並びましたが、実は、昭和28年までは、日本を襲った台風がこのような名前がつけられていたのです。

29年からは日本にくる、こないに関係なく、南の海上で生まれた台風のすべてに発生順に番号をつけ、1号・2号と番号で呼ばれるようになりました。

過去30年間の月別台風発生数と日本への上陸数は下表のとおりですが、台風の中には、発生して1日もたないうちに消えてしまうものもあり、日本へ上陸するのは1年間に平均3個で、1年を通じての発生数・日本への上陸数ともっとも多いのが8月なのです。

月別台風発生および上陸回数 (1951年～1980年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	30年平均
発生数	15	9	14	24	33	50	121	161	149	118	76	36	806	26.9
上陸数	-	-	-	1	4	13	34	29	7	-	-	-	89	3.0

注1: 台風の発生は、弱い熱帯低気圧が台風(中心付近の最大風速17.2m/s以上)となるときをもち、その月の発生数としました。
 注2: 台風の上陸は、台風の中心が日本(九州、四国、本州および北海道)のどこかに上陸したもので、温帯低気圧または弱い熱帯低気圧の上陸は除いてあります。なお、島、列島(南西諸島、伊豆諸島および五島列島等)を通過したものは含まれていません。

8月・9月の台風シーズンを迎え、わが家の安全のため、四方に心のアンテナを伸ばしておきましょう。

東海地震と警戒宣言

東海地震は、駿河湾で発生し、東海地方を中心に大きな被害が予想されている大地震で、現在この地震に限り、発生を前もって知ること(予知)ができることとされています。

東海地震の発生のおそれがあるときは「警戒宣言」が発令され、いろいろな規制が行われます。この地震が発生すると、川崎市内では震度5くらいの揺れで、川崎全体としては、それ程大きな被害は出ませんので、必要以上に地震をおそれず、冷静に地震に対処しましょう。



緊急物資輸送訓練(昨年度)



災害時の援助協定も20歳
 川崎市は、昭和44年以来、山形市をはじめ新潟市・富山市・福井市・静岡市の各市と災害時の相互援助協定を結び、応急対策の万全を図っていますが、この協定も今年で20年を迎えることになりました。

昭和56年に山形市が記録的な豪雪に見舞われた時には、約1箇月間、川崎市から職員9人(除雪用モーターグレーダー3台)を派遣し、同市内の生活道路の除雪作業に活躍し、山形市民から大変喜ばれました。

今回の総合防災訓練の中でも、協定各都市の協力を得て、緊急物資輸送訓練を行います。